

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ 基本制度ワーキングチーム(第6回)	参考4 - 1
平成22年12月6日	

# 幼保一体給付(仮称)について

## 参考資料

【多様な保育サービスのイメージ】

平成22年12月6日  
第6回 基本制度ワーキングチーム  
参考資料

# 1 小規模保育

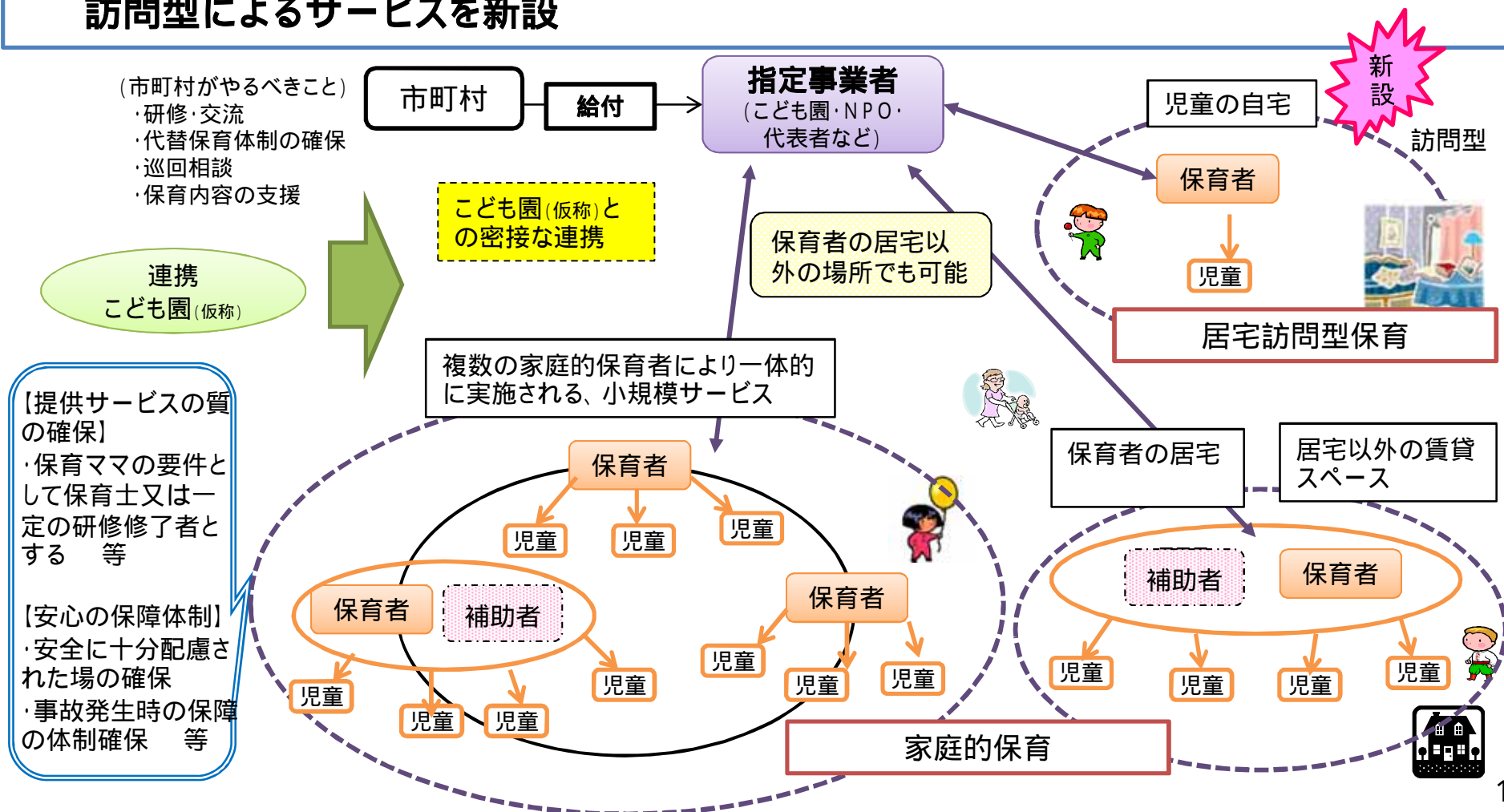
## 少人数を対象とするきめ細やかな保育

少人数制で、一人ひとりの発達状況、体調などにきめ細やかに対応可能。

## 家庭的な環境の提供(主に3歳未満児を対象)

主に3歳未満児を対象として、家庭的な保育を提供。

## 訪問型によるサービスを新設

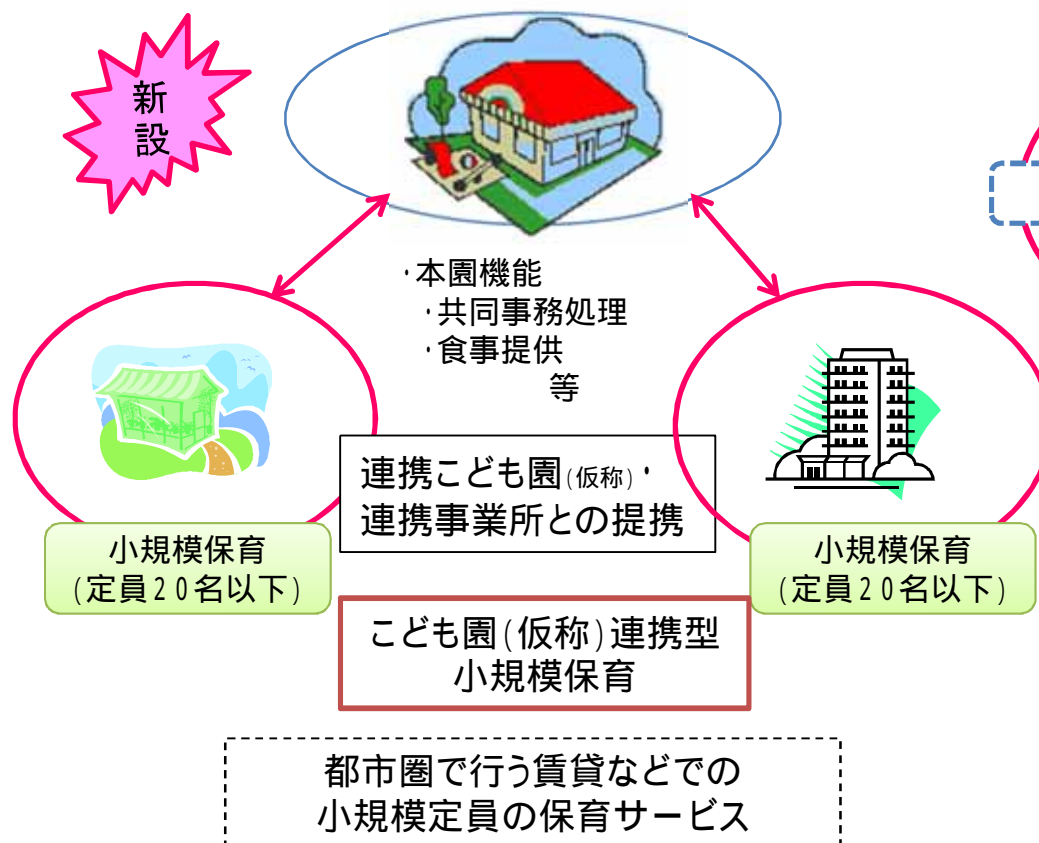


## 2 小規模保育

### 独立したサービス類型の創設と独自の基準設定

- ・ 3歳未満児に重点化した需要に対応  
3歳未満児に特化したサービス類型の推進
- ・ へき地などの人口減少地域などにおける小規模保育  
6～19人定員のサービス類型の創設等

#### 【イメージ】 連携型・サテライト型



#### 【イメージ】 多機能型



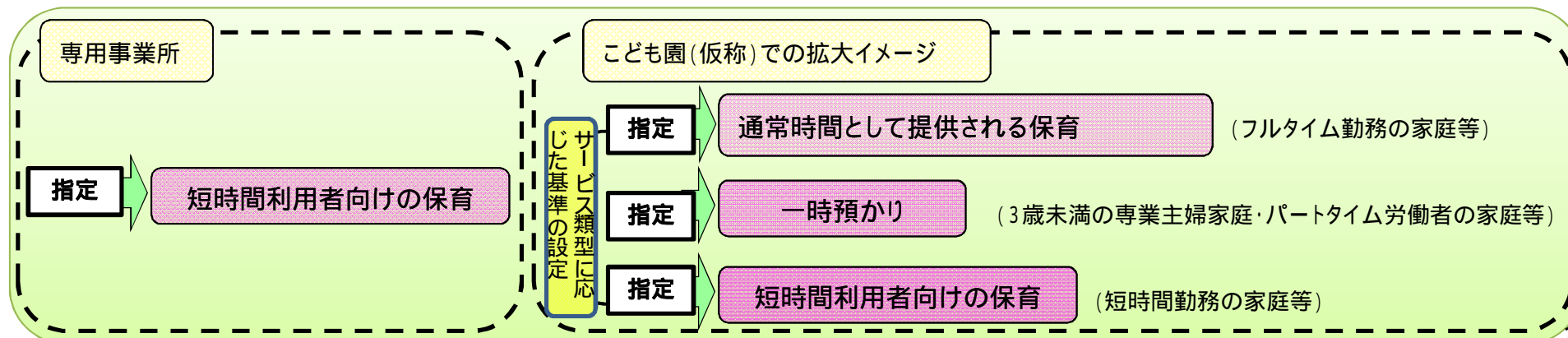
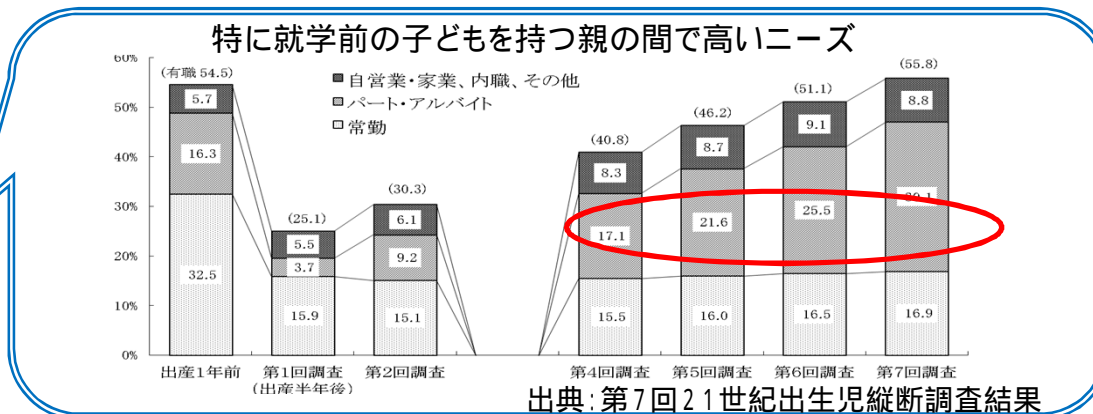
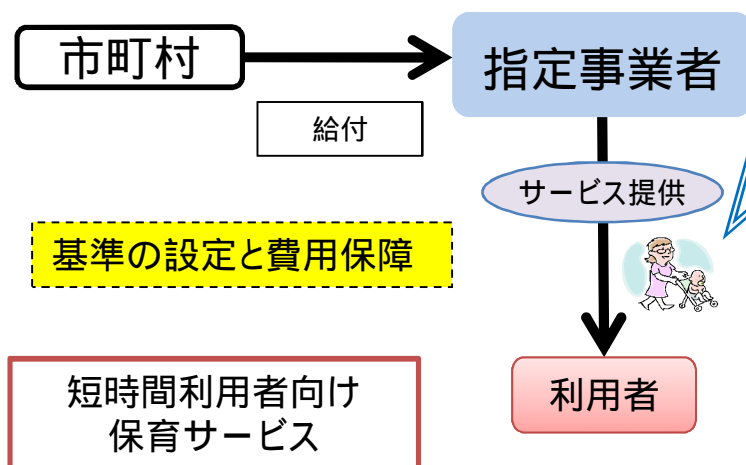
### 3 短時間利用者向け保育

主に3歳未満の子どもを持つ親の高いニーズへ対応する専用類型の創設

実績上も、就学前の子どもを持つ親の間で、短時間利用できる保育を求めるニーズが高いことを踏まえ、日数、時間の短い需要に対応し、パートタイム労働者等が定期的に使う専用サービスを提供

サービス類型に応じた基準の設定と費用保障によるサービス体制の確保

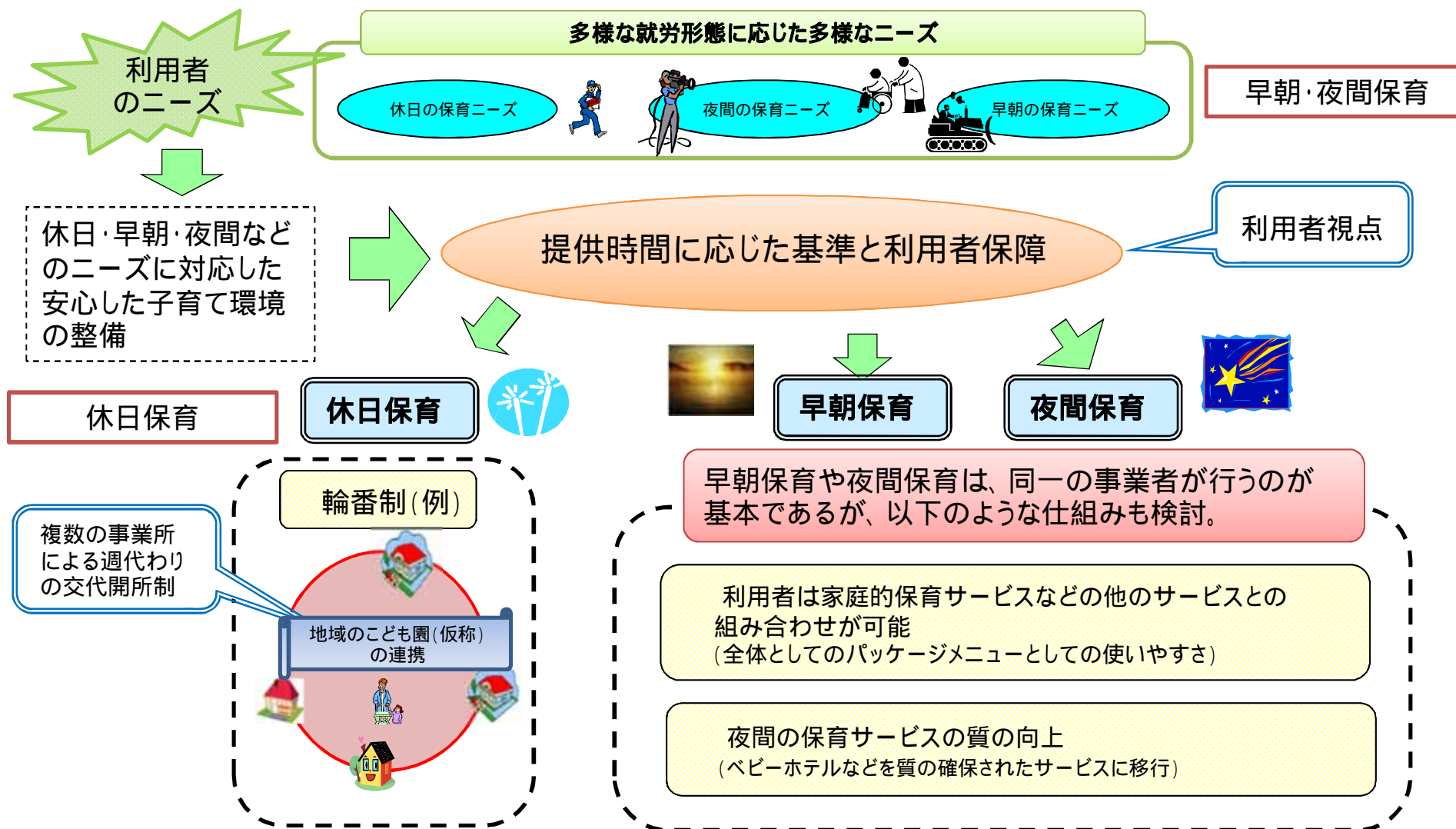
幼保一体化と連動し、こども園(仮称)におけるサービス拡大



## 4 早朝・夜間・休日保育

### 親の多様な就労形態に対応する安心な子育て環境の整備

早朝、夜間、休日にも対応する保育サービスを提供し、多様な就労形態にあっても、安心して子育てできる環境を整備



## 5 事業所内保育・広域保育

## 子育てをしながら働く労働者が安心して仕事と子育てを両立できる環境の整備

居住地だけでなく、職場の近くのこども園(仮称)も利用可能に。  
勤務時間に合わせた保育が可能に

**労働者にメリット**

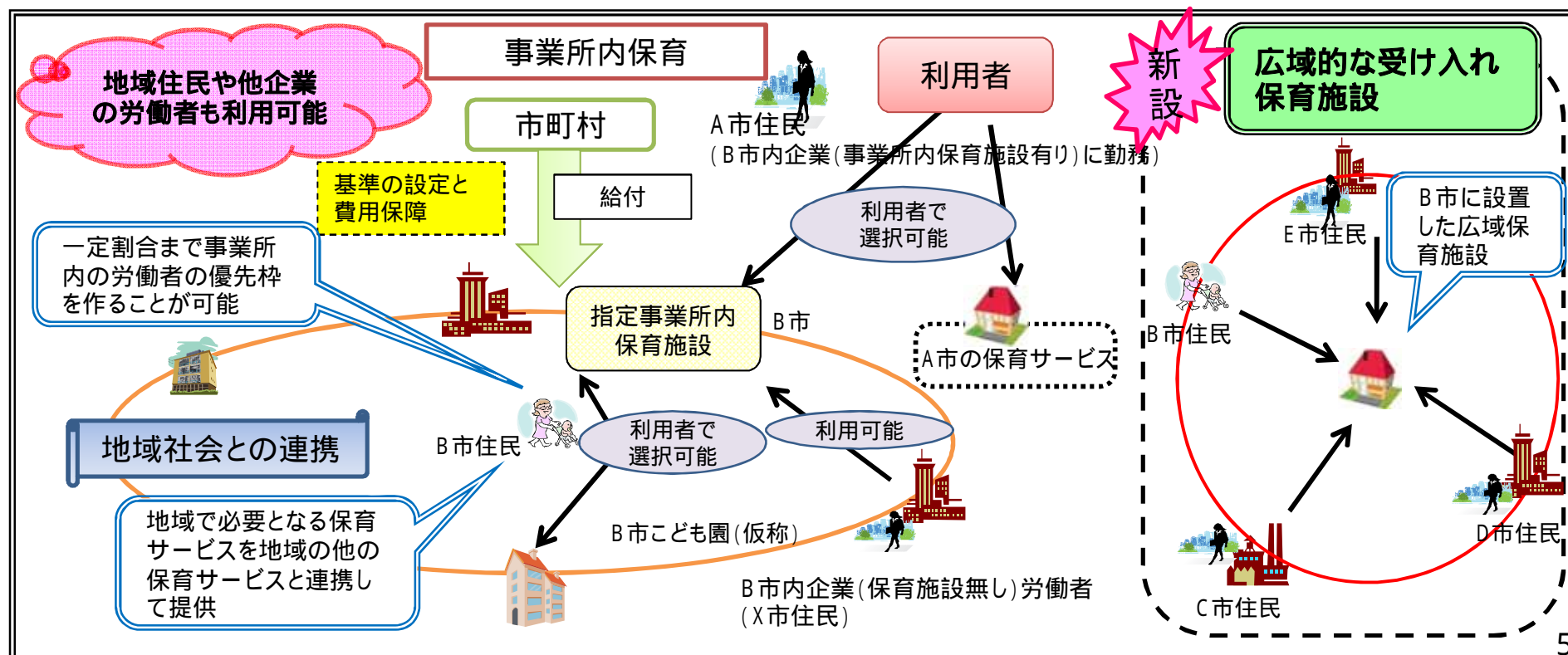
## 企業の人材確保とその定着に貢献

**企業にメリット**

## 地域社会への貢献

事業所内のこども園(仮称)が地域の他の保育サービスと連携

## 地域にメリット





## 6 病児・病後児保育

### 子どもの態様に応じた利用

- ・ **すべてのこども園(仮称)で看護師を配置することにより体調不良児への対応を強化**  
すべてのこども園(仮称)で看護師を配置(安全性と利便性の向上) (保育時間中に体調が悪くなった場合など)
- ・ **施設型病児・病後児保育の提供(単独型、こども園(仮称)・医療機関併設型等を指定)**  
(感染症等専用の保育を必要とする場合など)

事業主体が、安定的に運営できるよう、病児・病後児保育サービスの特性を踏まえた稼働率で算定するなど、実態に見合った評価体制・給付体系の構築

- ・ **訪問型の新設(指定事業者)の検討**

研修を受けた看護師・保育士等による訪問  
医療機関と連携したサービス提供

